

## 水の神様

おか だ きく じ ろう  
岡田 菊 次 郎

岡田菊次郎は、1867(慶応3)年、碧海郡安城村戸崎(現安城市安城町)に覚兵衛の長男として生まれた。19歳で家業の米穀商を弟に譲って百姓となり、1町歩ほどの田畑をもらい新家に出た。その頃、東海道線路線工事の測量を手伝ったり、土地整理委員として租税制度の基本となる土地調査を行ったりし、これが村政にかかわる本格的な第一歩になった。安城村会議員や町会議員、愛知県会議員を歴任するとともに、1901(明治34)年から2年間村長を、1910(明治43)年から1946(昭和21)年まで町長に就いた。県立農林学校の誘致や警察署、郡役所を知立町から安城町へ移設、道路網の整備、各種工場誘致などが業績としてあげられる。

菊次郎は、大正・昭和時代の激しい変動期に、県立農林学校初代校長の山崎延吉とともに碧海農業のけん引者として働き、安城を中心とした「日本デンマーク」をつくりあげた。

1957(昭和32)年には安城市第1号の名誉市民に選ばれ、1961(昭和36)年に長寿お祝いとして安城神社東の広場で菊次郎の好きな大相撲が開かれた。その翌年、96歳で生涯を終えた。

## 〈 明治用水との関わり 〉

明治用水との関わりは早く、1897(明治30)年に明治用水普通水利組合の議員になったのを皮切りに、1903(明治36)年から1948(昭和23)年までは常設委員(役員)、1952(昭和27)年には明治用水土地改良区理事長(初代)に就任した。

菊次郎が関係した主な事業としては3つある。第一に、悪水利用工事である。末流であっても明治用水かんがい地域全体に細心の配慮をしていた。

次に、東加茂郡下山村羽布(現豊田市羽布町)の山林約100町歩に、

造林を目的とした地上権を設定、植林して以降、1914(大正3)年には長野県下伊那郡根羽村の山林約564haを購入、植林を行った。反対者を説得してのこの事業により、今も明治用水が稔り豊かな西三河平野を潤している。

そして、枝下用水の合併である。枝下用水と明治用水は同じ矢作川筋から分水することで水争いが起こっていたが、西三河地域発展のためには両用水の合併が必要であると説き、1926(大正15)年に合併した。

このように、用水の配水に苦心し、水源かん養林取得による水源確保と、調和のとれた流域のあり方を模索し具現化していった菊次郎は「水の神様」と呼ばれ、人々から敬われるようになった。

## 岡田菊次郎像

明治用水水源管理所内(豊田市水源町)

